

令和元年度 業務実績報告書（案）

参 考 資 料 集

令和2年6月 15 日 時点

公立大学法人 名古屋市立大学

目次

年度計画 No.	資料名	頁数
1、10 特記事項 教育（1）	教学マネジメント基本方針	1
32 特記事項 教育（2）	進化型実務家教員(エバンジェリスト)養成プログラム について	3
43 特記事項 研究（1）	脳神経科学研究所について	4
50、66 特記事項 社会貢献（1）	産学官共創イノベーションセンター ニュースレター	5
11、19、24、50、70 特記事項 国際化（1）	国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム (環境健康安全学大学院プログラム) について	9
68、72 特記事項 国際化（2）	NCUアジア拠点校シンポジウム 2019 チラシ	13
74 特記事項 附属病院（1）	がん診療・包括ケアセンター パンフレット	16
86	コンプライアンス推進室の設置について	24
98 特記事項 自己点検・評価、 情報の提供等（1）	日経 BP「全国大学スマホ・サイト ユーザビリティ 調査 2019-2020」 について	25

名古屋市立大学教学マネジメント基本方針

前文

名古屋市立大学は、大学憲章に定める「個性に即した人生の思考基盤となる教養の涵養」、「次世代をリードできるバランス感覚に優れた人材の育成」、「きめ細やかで温もりのある教育の実践」を確実に実施し続けていくため、全学的な教育指針として、ここに教学マネジメント基本方針を制定する。

1. 教育内容の改革

- (1) 名古屋市立大学のすべてのカリキュラムは、学位授与方針に基づいて策定されたカリキュラム編成方針に従って体系的に編成するものとする。カリキュラムの体系的な編成にあたっては、科目の段階（学修の順序）とレベルを示す科目ナンバリングおよび学位授与方針に定める修得すべき能力・資質とカリキュラムとの関連性を体系的に示すカリキュラムマップにより明確化する。
- (2) 学位授与方針に基づくカリキュラム編成方針に従って、各授業形態（講義、演習、実験、実習など）が適切に配置されているか、学位授与方針に明記された修得すべき能力に相応しい授業がバランスよく配置されているかを、各部局は組織的に不断の点検と改革を行う。その際、カリキュラムマップとカリキュラムツリーを活用し、カリキュラム改革と授業内容および授業方法の改善、学修成果の把握・可視化を進める。
- (3) 授業内容・授業方法、カリキュラムは、学問分野の進展や社会の要請・ニーズに応じて改編し、学生の学修成果や履修状況を踏まえて不断の改革を行う。

2. 教育方法の改善

- (1) 教育の目的や授業の到達目標に照らして、講義、演習、実験、実習などの授業形態の適切な組み合わせとバランスをはかる。また、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導方法を採用する。
- (2) 学位授与方針に基づくカリキュラム編成方針と各授業の連関を明らかにしたシラバスを作成し、記載項目と記載内容を定期的に点検し、授業内容・授業方法の改善をはかる。
- (3) 学修成果指標や成績評価基準を適切に定め、厳格で適正な成績管理を実施し、公表する。公表にあたっては、GPA やルーブリック評価など客観的

な指標を設定する。

3. 教育実施体制の確立

- (1) 学生の効果的な学修を推進するために、単位の実質化（授業時間外の学修の確保）を進める。そのために CAP 制の継続的な実施や柔軟な学事歴と時間割の構築、学生自らが学修成果を振り返る仕組みの開発を行う。
- (2) 客観的なデータに基づく教育改革を行うために、教学 IR 体制を構築する。
- (3) 学生が自らキャリア形成に取り組むことができるように、キャリア関係科目を充実し、さらにキャリア支援センターとの共同体制を強化する。

4. 教職員の資質・能力の向上

- (1) 教員の教育研究力向上のための FD 研修と教職員の専門的能力・資質向上のための SD 研修を計画的・組織的に実施する。
- (2) FD・SD は教育改革フォーラム、各種研修会、各種講演会を結節点にするが、それらに収斂されることなく、日々の業務の中で組織的に実施する。

5. 教学マネジメント推進体制

- (1) 教育内容の改革、教育方法の改善、教育実施体制の確立、FD の研究・開発については高等教育院が行う。教育支援に係る SD に関しては高等教育院が事務局総務課と連携して研究・開発・実施する。
- (2) 高等教育院が行う教育内容の改革、教育方法の改善、教育実施体制の確立、FD の研究・開発は、全学教育機構における検討を経て、全学的な実施をはかる。
- (3) 教学マネジメント基本方針および教育改革の進捗状況については、教育研究審議会に報告し、継続的に点検・改善を行う。

進化型エバンジェリスト養成プログラム (TEEP: Training for Evolutionary Evangelist Program)構築事業



TEEP: 進化型エバンジェリスト養成プログラム

基本コース

- ・大学教育と進化型エバンジェリスト (大学とは何か、現状と課題、教育方法・学習評価方法の基礎理解)
- ・教育・研究倫理 (大学での教育・研究におけるハラスメントを含む倫理の理解)
- ・研究方法論 (研究推進にあたっての基礎能力や研究指導力の修得)
- ・研究指導論 (研究指導を前提に実際に卒業論文指導の補助等を実践する)
- ・大学教育実践演習および事前・事後指導 (シラバス作成やゲストスピーカーとして実際に大学の講義を行う)
- ・持続可能な社会構築論 (ソーシャル・デザインを踏まえた実務家教員の基礎力養成。データ科学も含む)
- ・PBL (Project-Based Learning) 実践演習および事前・事後指導 (PBLの企画・実践を行う)

専門コース

- ・経営実務コース
 - ・減災医療コース
 - ・心理カウンセリングコース
 - ・スポーツ実務コース
- 名古屋市立大学と連携校の強みを生かした特別コースを開講

【特徴】実務家教員の養成および活躍の場としてPBL(Project-Based Learning)と多職種連携を重視

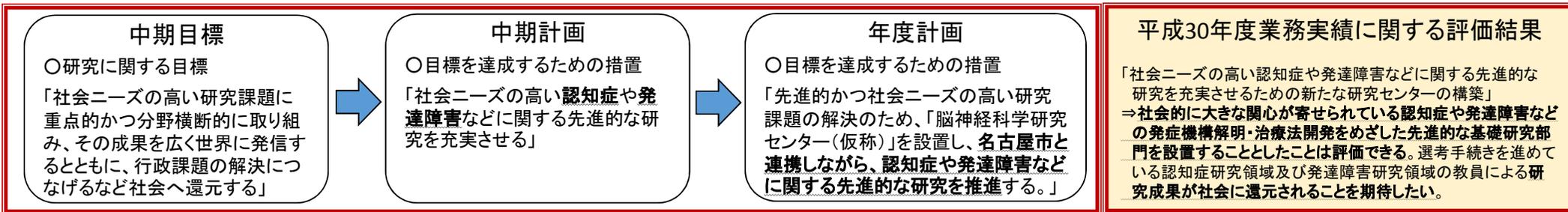
【工夫】①PBLの発案の場の構築 (大学・企業・行政・市民が参画する) TEEP運営委員会の設置

⇒未体系の実務領域 (新学術領域) の共同研究や養成された実務家教員が実際に講義を持つ際のフィールド開拓の場としても活用

②現実社会の課題は複合的であるため、多職種連携を前提にPBLのテーマも複数テーマを含む形で設定

③科目はネット配信、実習系科目も土日祝日または夜間開講を原則

～認知症や発達障害などに関する先進的な研究の強化～



■ 認知症、発達障害に関する先進的な研究の強化、成果の還元



N+ 名市大の DNA

File No.4

「知の挑戦～今までの経験が通じない未来へ」

産学官連携を推進するための産学官共創イノベーションセンターが創設されます。

ひと昔前には、こうした活動自体が大学で行われるなど想像もできませんでした。今後の大学発展にとって重要な柱の1つとなっています。

こうした大学のありようの変化は、科学技術の飛躍的な進歩により、その成果が社会を変え、莫大な富を生み出す時代に突入したことを意味しています。

過去30年間の科学技術の進歩は人類史上経験のないほど急速でした。しかし、今後30年間の進歩は、指数関数的にそれを上回る速度で進行すると考えられます。量子コンピューターが使われ、AI(人工知能)の能力が飛躍的に高まることによりAIが人間の知能を超える日が2040-50年ごろに訪れるとされます(シンギュラリティ)。こうした将来像を踏まえて大学と企業はどう向き合うべきなのでしょう。更なる発展を目指す企業と大学が、新たな枠組みで共同して取り組むべき課題は数多くあると思います。「思ってもみないような」新しい連携の形を模索していきたいと思ひます。



学長補佐
(産学連携、分子医学研究所
医学研究科 研究科長)
道川 誠 教授

Page

名市大のDNA・特集

- ・知の挑戦
～今までの経験が通じない未来へ …1
- ・産学官共創イノベーションセンターを創設 …1

研究

- ・平成31年度科学研究費助成事業の申請状況 …2
- ・特別研究奨励費採択者の声 …2
- ・論文から読み取る大学の研究力評価 …3
- ・国の競争的資金 平成30年度
主な新規採択者 …3

産学官

- ・「産業界からの収入」分野 公立大学1位 …4



- ・研究室訪問 …4

特集
Feature

産学官共創イノベーションセンターを創設



センター長
理事(研究・国際)
今泉 祐治

産業競争が激化する昨今、大学の先端的な知識や技術を積極的に活用することは企業等にとってもますます重要となっており、オープンイノベーションに対する期待はかつてないほど高まっています。

また、国においては、「日本再興戦略2016」等で、2025年までに企業からの投資を3倍増とすることを目標に掲げ、そのための様々な施策を行っております。

このような中で、本学においても、本格的な産学官金連携を推進していくため、産学官共創イノベーションセンターを創設します。

今後、産学官共創イノベーションセンターが中心となり、「組織」対「組織」による本格的な連携の実現を図りたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

産学官共創イノベーションセンター



業務内容

- ▶ 産学官金連携による共同研究等の推進に関すること
- ▶ 知的財産の創出、保護及び活用に関すること

平成31年度の科学研究費助成事業の公募にあたり、本学では553件の申請があり、過去最多の申請件数となりました。

研究種目別にみると、「若手研究」のほか、「基盤研究B」や「挑戦的研究(萌芽)」などの申請件数も増加しており、若手研究者の研究に対する前向きな意欲やベテラン研究者による、より高度なレベルの研究へのチャレンジ精神が感じられる結果となりました。

本学では、科研費書き方セミナーやピアレビュー、URAオフィスによる相談、特別研究奨励費等、科研費に関する様々な支援を行っています。今後も、積極的にご活用いただき、研究活動にお役立てください。



中区分別採択件数 TOP10 ランクイン!

文部科学省が公表した平成30年度科学研究費助成事業の中区分別採択件数上位10機関において、本学は「生体機能および感覚に関する外科学およびその関連分野」で7位にランクインしました。

中区分別採択件数上位10機関

中区分「生体機能および感覚に関する外科学およびその関連分野」

順位	機関名	新規採択件数	配分額(千円)
1	東京大学	53	89,200
2	大阪大学	50	68,300
3	慶應義塾大学	47	94,400
4	京都大学	42	114,400
5	順天堂大学	34	56,200
6	京都府立医科大学	31	46,000
7	名古屋市立大学	30	51,500
8	東北大学	29	44,200
9	東京医科歯科大学	28	47,500
10	名古屋大学	26	54,300

※配分額は直接経費

区分	申請件数		
	H29	H30	H31
特別推進研究	0	0	1
新学術領域研究	27	24	29
新学術領域研究(計画研究)	3	12	6
基盤研究(S)	0	0	0
基盤研究(A)	6	2	5
基盤研究(B)	30	37	52
基盤研究(B)特設分野	1	2	0
基盤研究(C)	225	223	226
基盤研究(C)特設分野	4	4	1
挑戦的研究(開拓)	1	1	2
挑戦的研究(萌芽)	49	58	63
若手研究 ※H29は若手研究(A)と若手研究(B)合算	125	143	156
研究活動スタート支援	11	11	-
奨励研究	11	8	8
研究成果公開促進費(学術図書)	1	2	4
計	494	527	553

特別研究奨励費採択者の声

「特別研究奨励費を契機として」

平成29年度より特別研究奨励費を2年間にわたってご支援いただき、この場をお借りして心より御礼申し上げます。本研究費の採択を契機として、本学医学部の先生方、東京大学、名古屋大学、理化学研究所など他研究機関の先生方との共同研究によるプロジェクトが実現し、新たな発想での研究へと発展しました。それまでAMEDでおこなってきたmRNA安定化技術の開発をさらに拡張し、肝炎や遺伝性疾患治療を目的としたmiRNA、アンチセンス核酸、ノンコーディングRNAの安定化技術開発へと展開しました。このような成果をもとに、基盤研究Bや挑戦的研究などの科研費はもとより、AMED(肝炎創薬実用化等研究事業)、武田科学振興財団特定研究助成の獲得につながり、分担していただいた先生方とのシンポジウムも複数主催することで、研究成果を広く公表しました。また、英国科学誌に掲載された研究成果のプレスリリースにより、新聞各紙で大きく報道され、これらの実績により、本年度学長表彰もいただきました。

URAオフィスのアドバイスによるところが非常に大きく、13年前に私が本学に赴任した当時と比べると、本学の研究環境が格段に整備され、教員が研究しやすい環境が実現していると実感できます。今後も引き続き、AMED等の大型予算獲得を目指すとともに、このような研究成果をもとに産学連携へと繋げていくことでさらなる発展を期待します。



薬学研究科 遺伝情報学
星野 真一 教授

論文解析について

論文から読み取る大学の研究力評価

論文に着目した研究力分析には様々な指標がありますが、対象がジャーナル、個別の論文、各研究者や研究機関によって異なります。内閣府による第5期科学技術基本計画の目標値には、論文数や被引用回数トップ10%論文数の割合が掲げられています。

また最近注目されている、「Times Higher Education世界大学ランキング」に使われる大学の研究力指標には、論文数などの量を図る指標と、FWCI(Field Weighted Citation Impact)による被引用数をもとにした質・インパクトを図る指標があり、一方、国際性指標には国際共著論文比率などがあります。

研究評価・分析のためのツールとして、InCitesやSciValなどが使われています。収録された論文データに基づいて、簡単に国・大学・研究機関、年、分野などの単位で統計的に集計・分析することができ、組織の強みや比較などの研究力分析を独自に行うことができます。下図にはClarivate Analytics社から提供されたデータ(Web of Science, InCites Benchmarkingによる分析)などで本学の研究パフォーマンス(研究業績)を紹介しています。



論文に関連する代表的な指標

*FWCI:論文の被引用数を、その論文と同じ出版年・分野・文献種の論文の世界平均(基準値)化した指標。異なる分野・領域に属する論文のインパクトの比較が可能となる。
*h-index:論文の質と量を同時に測る指標であり、被引用数が“X”回以上ある論文数が“X”本あるとき、h-indexは“X”とする。

各市大の研究業績サマリー(2008-2017)* 在籍教員の項目別ランキング(2008-2017)

論文数	4,582	国内大学47位	項目	研究科	職階	氏名
総被引用回数	60,226	国内大学43位	総論文数 [§]	医学	教授	田中 靖人
高被引用論文数	31	国内大学54位	最多引用論文 [§]	医学	教授	芝本 雄太
Top10%論文割合	7.27%	国内大学83位 大学平均8.26%	Top10%論文割合 [§]	医学	教授	田中 靖人*
国際共著論文率	21.02%	国内大学127位 大学平均29.78%	国際共著論文率 [§]	システム 自然科学	教授	森田 明理
						杉谷 光司

*Clarivate Analytics社から提供された、Web of Science 及び InCites Benchmarkingを使った分析結果。対象:論文は2008年から2017年に掲載されたArticle-Review大学はInCites Benchmarking収録202大学。*Elsevier Scopusを使った分析結果(2008-2017年掲載論文)。*第一著者。*論文数20以上の教員のみ対象。

大学や研究者の研究力を評価するためには論文数だけでなく、様々な観点からの指標を加味する必要があると言われています。本学においてもこれらを踏まえ、論文数、FWCI、国際共著を指標にして、貢献のあった教員に論文表彰を実施しています。

国の競争的資金 平成30年度主な新規採択者

主体	公募事業	研究課題名	所属	職階	主任研究員
CAO	食品健康影響評価技術研究	新規評価支援技術の開発に関する研究 ～毒性予測に向けたデータベースの活用方法の検討～	薬学	教授	頭 金正博
ERCA	独立行政法人環境再生保全機構	農薬関連化合物の共通代謝物コンポーネント評価による 新規リスク評価指標の開発	医学	教授	上 島 通 浩
AMED	難治性疾患実用化研究事業	希少・未診断疾患に対する拠点病院の体制整備に関する研究	医学	教授	齋 藤 伸 治
AMED	「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業	甘草の副作用、偽アルドステロン症発症予防のための バイオマーカーの開発	薬学	教授	牧 野 利 明
ACA	大学を活用した文化芸術推進事業	未来につなぐヘルスケアアートマネージメント人材育成事業	芸工	教授	鈴 木 賢 一
AMED	医工連携事業化推進事業	チタンブリッジによる甲状軟骨形成術2型の標準化と海外開発事業化	医学	講師	諏 岐 徹 治
AMED	IoT等活用行動変容研究事業	センサー内臓アンクルウエイトの開発とフレイル予防への効果の検証	医学	教授 (専攻担当)	赤 津 裕 康
AMED	革新的医療技術創出拠点プロジェクト	次世代AI技術を用いたリアルタイム音声障害診断システムに 関する研究開発	医学	講師	諏 岐 徹 治
AMED	産学連携医療イノベーション創出プログラム	癌細胞超選択的線力学診断法・治療法の開発	医学	教授	片 岡 洋 望
SME	商業・サービス競争力強化 連携支援事業(新連携支援事業)	クラウドを活用した運送ドライバー向け眠気検知 サポートサービスの開発・展開事業	医学	教授	早 野 順 一 郎
AMED	戦略的国際共同研究プログラム 日本-スペイン共同研究	Nano-scaffolding for neuronal migration and regeneration	医学	准教授	金 子 奈 穂 子
MHLW	慢性疼痛診療体制構築モデル事業	慢性疼痛診療体制構築モデル事業	医学	教授 (専攻担当)	杉 浦 健 之
MHLW	実践的手術手技向上研修事業	-	医学	教授	榎 木 孝 俊

「Times Higher Education世界大学ランキング2019」の産業界からの収入のスコアが公立大学1位(世界順位351-400位)となりました。

研究を推進する上で、産業界の外部資金は、とても有効です。

学術課では、産学連携イベントへの出展や創業企業によるオープンイノベーションの開催など産学連携活動を積極的に推進しております。お気軽にご相談ください。

※ 特許は、企業と共同研究を行うにあたり強みとなります。
特許出願前に学会・論文等で発表しないようにご注意ください。



産学連携イベント(新技術説明会)の様子

平成29年度
共同研究費獲得総額 上位5名

所属	補職	氏名
医学	教授(診療担当)	小栗 鉄也
医学	教授	森田 明理
医学	教授	田中 靖人
医学	学内講師	金澤 智
薬学	教授	山中 淳平

平成29年度
受託研究費獲得総額 上位5名

所属	補職	氏名
医学	教授	田中 靖人
芸工	教授	青木 孝義
薬学	教授	松永 民秀
医学	教授	上島 通浩
医学	教授	森田 明理

参加者の声

- ▶ 産学連携イベントで研究内容を発表したことがきっかけとなり、企業との共同研究に繋がりました。
- ▶ 創業企業のオープンイノベーションに参加。企業の考え方を知ることができ、企業との共同研究に繋がりました。



研究室訪問

薬学研究科 レギュラトリーサイエンス分野
頭金 正博 教授・安部 賀央里 特任助教

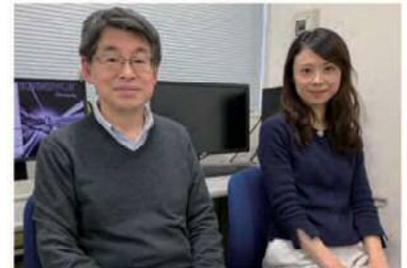
頭金教授は、製薬企業の研究者や国立医薬品食品衛生研究所の室長などを歴任されたのち、名古屋市立大学に日本初の「レギュラトリーサイエンス分野/医薬品安全性評価学分野」を立ち上げられました。

医薬品は、「効く」こと以外にも「安全」に使えることがとても大切です。レギュラトリーサイエンスとは、狭義には、新しい薬が作られ世に出回る前後の法規制やガイドラインの裏付けとなる科学的な根拠を提供する学問と言えます。ICH(医薬品規制調和国際会議)はこのガイドラインを世界各国で統一するための会議ですが、平成30年にE17(国際共同試験の計画及びデザインに関する一般原則)がまとまりました。今回Pooled Region(民族差に影響を及ぼす要因が明らかで説明可能であれば、複数の地域を一括りにした試験デザインが可能)という新しい考え方が導入され話題となっていますが、頭金教授らの研究チームは有効性や安全性の民族差に関する研究で多くの成果を上げています。

頭金教授は他にも、ある薬がどのような背景を持つ人に重篤な副作用を引き起こすのか/引き起こさずに効くのかといった患者の層別化や個別化医療につながるエビデンスの積み上げにも注力されています。

平成24-28年には名市大発の抗がん剤モガムリズマブ等をモデルとした副作用バイオマーカーの同定と評価を、複数大学の医学部・大学病院や医療機関との共同で国の事業として実施されています(厚生労働省:革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業)。

また、実験動物を使わずに化合物の構造情報等からコンピューター上での計算でどこまで毒性の評価ができるか、有機化学のバックグラウンドを持つ安部特任助教らとの機械学習を利用した取組みや、大規模医療情報(病院内の電子カルテ情報や診療報酬明細書等)を用いた副作用発症の実態調査と薬剤疫学研究、あるいは論文の自然言語処理による系統的レビューの自動化の試みを豊田工業大学の先生と共同で行うなど、レギュラトリーサイエンスの分野の様々なニーズに応えるべく、ドライ研究から細胞等を用いるウェット実験まで幅広く手掛け、日夜研究に邁進されています。(文責:URA奥津)



「創薬研究という有効性の強いものを探す方向に目が向きがちですが、安全性を担保するための研究はとても重要です。」

左: 頭金教授(AMED: 医薬品等規制調和・評価研究事業、内閣府: 食品健康影響評価技術研究)

右: 安部特任助教(科研費 若手研究)
()内は30年度の主な研究費獲得実績

連絡先
Contacts

研究・産学官連携・社会貢献の情報を発信中!!

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 桜山キャンパス本部棟2階
【学術課】 ☎052-853-8041 ncu_renkei@sec.nagoya-cu.ac.jp
【URA オフィス】 ☎052-853-8518・8519 ura@sec.nagoya-cu.ac.jp

名古屋市立大学 研究・産学官連携・社会貢献	検索
名古屋市立大学 URAオフィス	検索



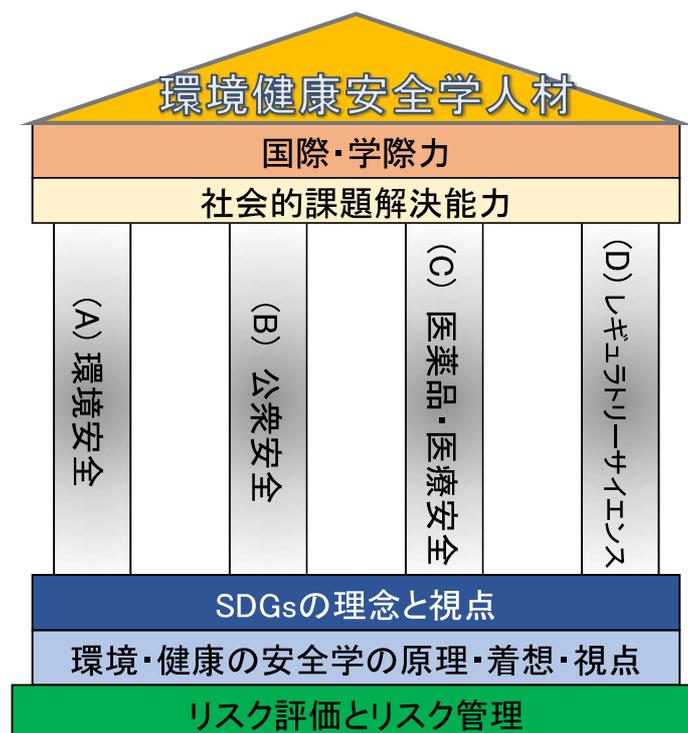
環境健康安全学 大学院プログラム

文科省の公募事業である2019年度「**国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム**」に下記のプログラム名称で本学からの提案課題が選定されました。

ASEANを中心とする環境健康安全学リーダー人材 養成と国際ネットワーク形成プログラム

- 医学研究科、薬学研究科、理学研究科の研究科横断プログラムです。
- 各研究室に所属して、大学院の通常の課程を履修しながら、当プログラムを上乘せで学びます。
- ASEAN諸国等から優秀な**国費留学生**を受け入れます。令和2年10月に3名の留学生(薬学研究科1名、理学研究科2名)が来日し、各研究科の博士前期課程に入学し、このプログラムに入る予定です。
- 国費留学生以外に**日本人学生**、**私費留学生**にもこのプログラムに参加してもらい、ともに「環境健康安全学」を学びます。
- このプログラムでは、「環境と健康の安全学」領域に俯瞰的な視野を持ち、SDGsの理念の下、社会的課題の解決に挑戦できる高度プロフェッショナル人材を育成することを目的としています。

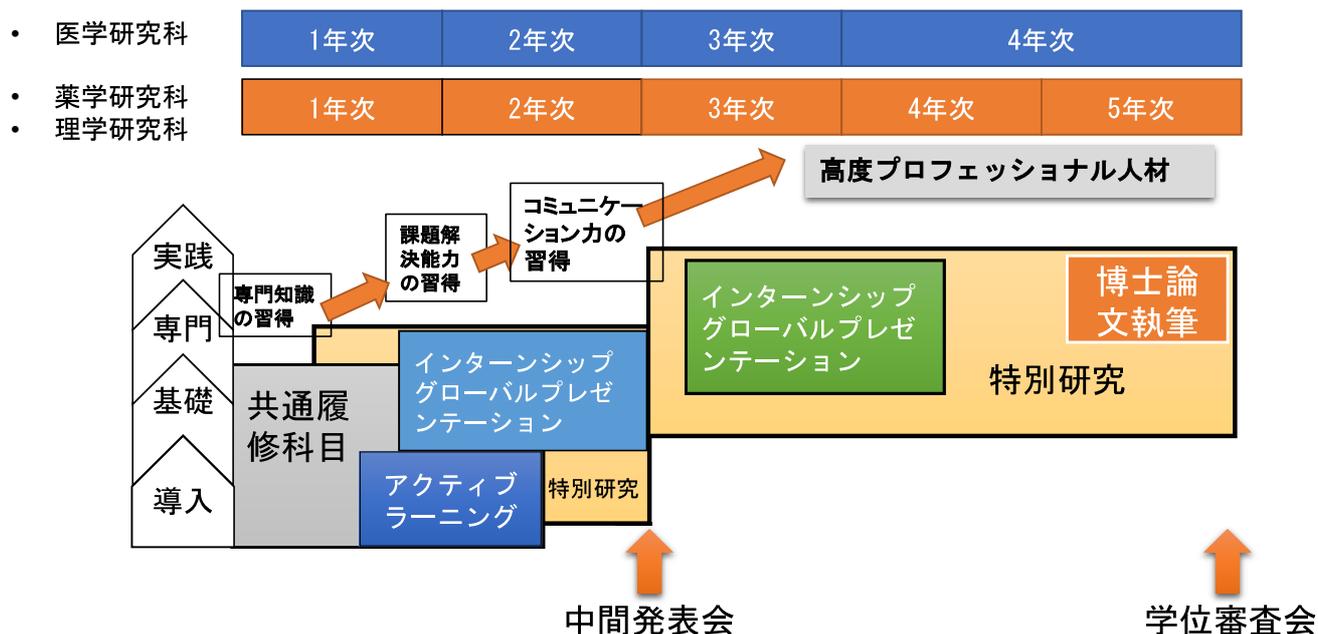
プログラムのコンセプト



プログラム修了生のキャリアイメージ

主なキャリアイメージ	高度プロフェッショナル人材として期待される能力	専門モジュール
① 研究者、大学教員	<ul style="list-style-type: none"> 研究遂行能力 世界的規模の研究成果発信力 グローバル人材の育成力 	A 環境安全 B 公衆安全 C 医薬品医療安全
② 製薬会社研究開発担当者	<ul style="list-style-type: none"> 研究遂行能力 世界的規模での開発調整能力 社会要請に応える実践力 	C 医薬品医療安全 D レギュラトリーサイエンス
③ 環境コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題に関する世界動向の情報収集力 科学的知見の確度を判断できる科学リテラシー 未曾有の課題に対峙したときの課題解決能力 	A 環境安全 B 公衆衛生
④ レギュラトリーサイエンス、公衆衛生の高度専門職	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品等の審査、安全対策を行える高度専門人材 食品のリスク評価を行える高度専門人材 データサイエンスを駆使した公衆衛生課題解決能力 	B 公衆安全 C 医薬品医療安全 D レギュラトリーサイエンス

コースワーク(履修要件)の概要



履修項目と単位

	科目	項目	単位
講義	共通履修科目 (6科目を選択必修科目)	環境健康安全管理学概論I、環境健康安全管理学概論II、自然科学と環境持続性(SGDs)概論、データサイエンス特論 薬物・毒物代謝学特論、毒性病理学特論 レギュラトリーサイエンス特論、衛生化学特論、薬用資源学特論、化学物質と環境特論、グリーンケミストリー特論	6
実習		産官学環境健康安全学インターンシップ(A,B,C,D)	2
		グローバルプレゼンテーション(A,B,C,D)	2
グループワーク		環境健康安全学課題解決アクティブラーニング(A,B,C,D)	1

当プログラムに参加を希望する学生は、前期に行われる衛生化学特論、レギュラトリーサイエンス特論を受講することで、コースに必要な単位も修得できます。

環境健康安全学課題解決アクティブラーニング

- 1年次後期～2年次にかけて実施します。
- 環境健康安全学に関するグローバルレベルでの問題意識やコミュニケーション力および複数の研究科に在籍するプログラムメンバーの共有意識を養成することを目的とします。
- 国費留学生、私費留学生と日本人学生からなる3～4名の混成グループで1グループを構成します。
- SDGs及び環境健康安全に関連した課題について課題解決法を見いだすことを目的とするグループワークを実施します。
- グループワークの成果については、プログラム運営委員会が主催する発表会において英語での発表と討議を行います。

産官学環境健康安全学インターンシップ

産学官協働による人材育成を目的に外部機関(国立医薬品食品衛生研究所、国立環境研究所、放射線医学総合研究所等)への産官学環境健康安全学インターンシップを実施します。

前期1単位、後期1単位の2回実施します。

グローバルプレゼンテーション

国際学会において筆頭で発表することで、専門会議における英語でのオーラルコミュニケーション力強化を目指します。前期1単位、後期1単位の2回実施します。

出願期間と募集人数

出願期間

令和2年7月8日～7月31日(予定)

募集人数(3研究科の合計)

日本人学生、私費留学生とも各4名

(5月頃に募集要項が発行されます)

Think about SDGs on Public Health and Bio-Diversity at Urban Environment in Asia

アジアにおける社会衛生環境・生物多様性保全のSDGsと都市問題

5th-6th December, 2019

Nagoya City University Hospital 3F Conference Hall

名古屋市立大学病院病棟・中央診療棟 3 階大ホール

Participants 対象者
Faculty members and students
from Partner Universities and NCU
本学および協定校の教職員・学生

Language
使用言語
English
英語



5th December 10:00-17:00

Opening Ceremony 開会 10:00

Discussion Session

- Hacettepe University Professor, Vice-President Burçin Şener
- Hallym University Professor, Dean Changik Jo
- University of Santo Tomas Professor, Vice-Rector for Academic Affairs Cheryl R. Peralta
- Prince of Songkla University Assistant Professor, Vice-President Thakerng Wongsirichot

Lecture Session 1 Health and Welfare 健康福祉 13:00

- Nagoya City University Graduate School of Pharmaceutical Sciences Associate Professor IWAO, Takahiro
- Hallym University Professor Yu-Jin Paek
- Nagoya City University Graduate School of Nursing Associate Professor KANEKO, Noriyo

Lecture Session 2 Social Environment 社会環境 15:30

- Nagoya City University Graduate School of Economics Associate Professor TAMECHIKA, Hanae
- Prince of Songkla University Assistant Professor Thitworn Choosong
- Nagoya City University Graduate School of Humanities and Social Sciences Associate Professor SOGA, Sachiyo

6th December 10:00-17:00

Lecture Session 3 Health and Welfare 健康福祉 10:00

- Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences Professor KAMIJIMA, Michihiro
- Hacettepe University Professor A. Banu Ergöçmen
- Nagoya City University Graduate School of Natural Sciences Associate Professor OKUTSU, Mitsuharu
- Prince of Songkla University Associate Professor Hutcha Sriplung

Short Presentation / Poster Session ショートプレゼンテーション/ポスターセッション 13:30

Lecture Session 4 Nature Environment 自然環境 15:30

- Nagoya City University Graduate School of Design and Architecture Professor AOKI, Takayoshi
- University of Santo Tomas Assistant Professor Richard Thomas B. Pavia Jr.

Closing Remark 閉会 17:00

サテライト講演会 講演は日本語です

地球環境変化の中で健康をまもる
—SDGs への科学的貢献を通じて

医学研究科・医学部研究棟 11 階講義室 A

12月7日(土)
10:30 ~ 12:30



講演者：春日文子

(国立研究開発法人国立環境研究所・特任フェロー)
(フューチャー・アース国際本部事務局・日本ハブ事務局長)
(東京大学未来ビジョン研究センター・客員教授)

学内講演者：頭金正博 名古屋市立大学大学院薬学研究所教授

As Contact Point University... コンタクトポイントとして...

We have strong bond to promote educational and academic exchange as "Contact Point".
コンタクトポイント(海外拠点校)は留学生、研究者の受け入れ、派遣について、大学全体として大学間交流協定校の中でも、強い協力体制を整えている大学です。
海外拠点校 (2019年10月現在)

主催	名古屋市立大学
後援	名古屋市、(公財)名古屋国際センター、朝日新聞社、中日新聞社、中部経済新聞社、日本経済新聞社名古屋支社、毎日新聞社、読売新聞中部支社 (50音順)
問合せ先	名古屋市立大学 事務局学生課国際交流係
TEL	052-872-5067 (平日 9:00 ~ 17:00)
e-mail	ryugaku@sec.nagoya-cu.ac.jp



ハジテペ大学 (トルコ)



ハルリム大学 (韓国)



サント・トマス大学 (フィリピン)



プリンスオブソンクラ大学 (タイ)

NCUアジア拠点校シンポジウム2019サテライト講演会



地球環境変化の中で 健康をまもる

— SDGsへの科学的貢献を通じて



2019年

12/7土

入場
無料

申込
不要

▶▶▶ 10:30~12:30

場所 名古屋市立大学 桜山(川澄)キャンパス
医学研究科・医学部研究棟 11階 講義室A

地下鉄桜通線「桜山」駅 3番出口より徒歩3分

定員 当日先着180名 (入場無料、申込不要)



春日文子

国立研究開発法人国立環境研究所・特任フェロー
フューチャー・アース国際本部事務局・日本ハブ事務局長
東京大学未来ビジョン研究センター・客員教授

東京大学大学院農学系研究科博士課程修了後、国立感染症研究所を経て、2012年4月～2016年3月まで国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長。獣医師。食品安全、特に微生物学的リスク評価と食品由来疾患疫学の研究に携わり、WHO、FAOの専門委員も務める。2011年10月～2014年9月まで日本学術会議国際活動担当副会長、2014年10月より同会議連携会員。文部科学省科学技術・学術審議会委員、福島県「県民健康調査」検討委員会委員、他。2015年5月よりフューチャー・アース国際本部事務局・日本ハブ事務局長。2016年4月よりその他現職。

主催 名古屋市立大学

後援 名古屋市、(公財)名古屋国際センター
朝日新聞社、中日新聞社、中部経済新聞社、
日本経済新聞社名古屋支社、毎日新聞社、
読売新聞中部支社 (50音順)

問合せ先 名古屋市立大学事務局
学生課国際交流係

TEL 052-872-5067 (平日9:00～17:00)

e-mail ryugaku@sec.nagoya-cu.ac.jp

地下鉄桜通線桜山駅(S11)3番出口より徒歩3分



スケジュール

10:30

開会の言葉

理事長・学長 郡 健二郎



10:45

難波 伸治

名古屋市総務局企画部長
「名古屋市におけるSDGsの取り組み」

10:55

春日 文子

国立研究開発法人国立環境研究所・特任フェロー
フューチャー・アース国際本部事務局・日本ハブ事務局長
東京大学未来ビジョン研究センター・客員教授
「地球環境変化の中で健康をまもる
—SDGsへの科学的貢献を通じて」

11:50

頭金 正博

名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授
「食の安全を担保するための科学的な裏付け
～食品添加物のリスク評価を中心に～」

12:30

閉会の言葉

理事 今泉 祐治



本学の実績

THE 大学インパクトランキング 2019

—SDGs別ランキング—
「すべての人に健康と福祉を」

国内1位！世界15位にランクイン！

(国内1/40位、世界15/421位)

—総合ランキング—

国内4位！世界101-200位ランクイン！

(国内4/41位、世界101-200/462位)

THE 世界大学ランキング 2019

801-1,000位！

(国内同率25位)

地域貢献度ランキング 2017

東海地域 1位

持続可能な開発目標(SDGs)とは

2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル (普遍的) なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

外務省 JAPAN SDGs Action Platform 「SDGsとは？」より引用
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html#about_sdgs



開学70周年記念事業寄附金

明るい未来へ、七色の架け橋
～名市大の果てしなき挑戦～

このたび本学では、開学70周年を機に、開学100周年を見据え、世界をリードする大学を目指し、これからも多くの学生・研究者に選ばれる大学であり続けるよう、記念事業を実施することといたしました。「あなたの声援で大きく羽ばたく名市大」の実現に向けて、一丸となって取り組んでまいります。

寄附金についてのお問い合わせ先：総務課庶務係
052-853-8005





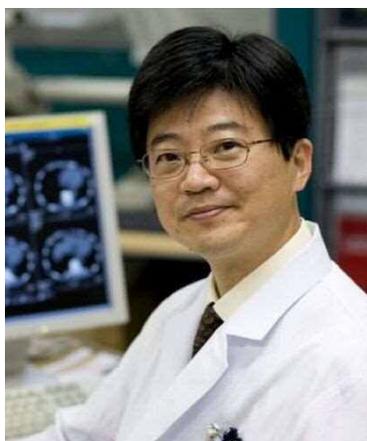
名古屋市立大学病院 がん診療・包括ケアセンター 概要



がん診療・包括ケアセンター

「がん対策基本法」に基づき国で策定された「がん対策推進基本計画」(現在第3期:平成30年3月9日閣議決定)に則り、患者本位のがん医療を実現し、がん患者が尊厳を持って安心して暮らせるように、がん医療の充実をはかるとともに社会の中でがんとの共生を可能とするための支援を行っていくことが目的です。その目的の達成に向けて、多職種や多診療科によるがんの集学的治療と包括ケアの提供を目指して、2019年5月29日に新しい中央部門として、開設いたしました。

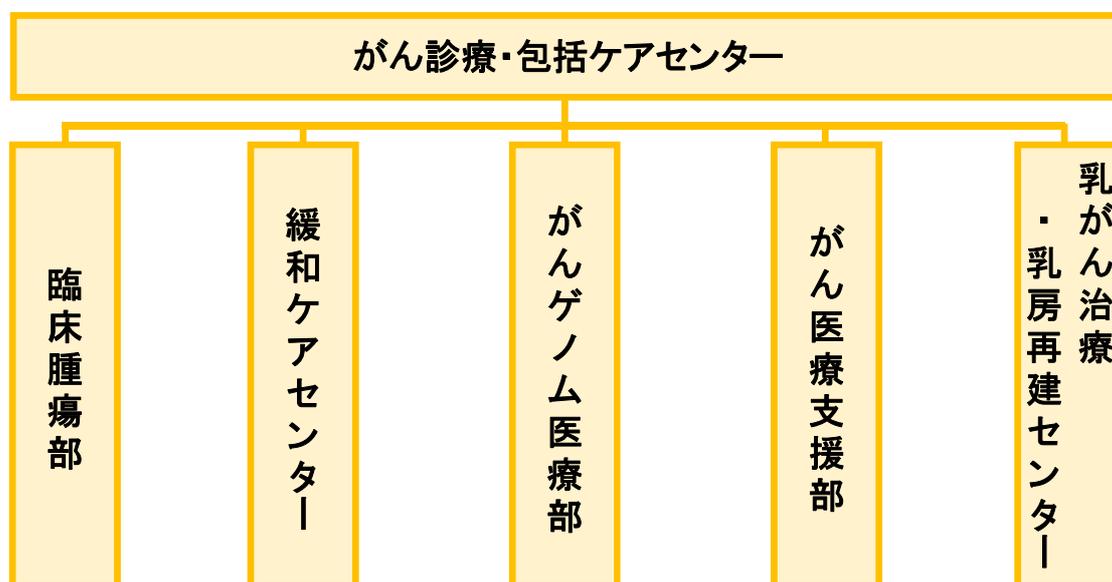
センター長 飯田真介(血液・腫瘍内科教授)



我が国においては、寿命の延長にともない、がんと診断される患者数が年間約100万人に迫る時代になりました。二人に一人は生涯に一度はがんを経験し、年間40万人近い方ががんで亡くなられています。治癒可能ながんも増えていきますし、治癒困難な場合も長期間にわたりがんとの共生していくことが可能な時代になっています。名古屋市立大学病院では、がん患者さん一人一人に最適な医療を提供させていただくとともに、がん患者さんが治療を受けながらご自宅や社会の中で暮らしていただけるよう支援させていただくことを目的に、がん診療・包括ケアセンターを設立いたしました。

センター概要

がん診療・包括ケアセンターは同じ中央部門の5部門から構成されています。また、それ以外にも各診療科をはじめ、高精度放射線治療センター、低侵襲手術センター、内視鏡医療センターなど、多くの部門と連携をはかって、充実した医療の提供に努めます。



がん相談支援の強化

当センター開設にあたり、地域がん診療連携拠点病院に設置が義務付けられているがん相談支援室を2室に増やして相談内容を充実させていきます。

市民の皆様が気軽にがんと診断された時点から治療、療養生活や社会復帰、生殖機能の維持、アピアランス、抗がん剤治療中の栄養相談、医療費に関する不安などあらゆる相談に対応できる場所にしていきます。

一般的な相談は1階がん相談支援センターでMSW(メディカルソーシャルワーカー)など専門の相談員が対応いたします。

がん治療やケアに関する専門的な相談は東棟2階の当センターでがん医療の専門知識を備えた看護師が窓口となって対応させていただきます。また、必要に応じて、薬剤師や栄養士など各分野の専門職スタッフとの面談、臨床腫瘍外来、がんゲノム外来、緩和ケア外来や専門診療科外来の予約が可能です。



臨床腫瘍外来の設置と薬剤師外来の充実



臨床腫瘍外来は、がん医療の初診外来に相当します。がんに関する詳しい相談から始まり、必要に応じて各専門診療科や緩和ケア外来、いたみセンターやがんゲノム外来などへの橋渡し役を担います。不安を抱えてみえる患者さんを支援し、悩みを解決できるようにご提案させていただきます。また薬剤師外来を充実させて、がんの薬物療法に関して、患者さんの生活指導や副作用に対する相談など安心して治療を受けていただけるような支援を行わせていただきます。

在宅療養の支援

ご自宅でがん患者さんが安心して過ごせるように、地域の医療機関と密に連携を取って安心して治療に臨んでいただけることができる治療計画(がん地域連携クリニカルパス)を充実させて在宅医療にシームレス(入院医療、外来通院、在宅医療へ段階的に移行するにあたっての継ぎ目のない治療)な提供体制を整えます。在宅で痛みなどのコントロールが困難な場合には、一時的に当院の緊急緩和ケア病棟に入院していただき、痛みのコントロールを行った上で、再びご自宅で安心して療養いただけるようお手伝いさせていただきます。

がん薬物療法に伴う多職種・

診療科横断的な支持療法チーム

近年のがん分子標的療法や免疫療法の副作用には、これまでの抗がん剤治療では見られなかった重篤な副作用があります。例えば、免疫チェックポイント阻害剤による内分泌異常や糖尿病、間質性肺炎、心筋炎、胃腸炎など、皆さんの主治医の先生の診療科だけでは対応が困難な副作用です。当センターの支持療法チームは、あらゆる診療科の医師や薬剤師などから構成されており、定期的なミーティングを開催しながら、想定される様々な副作用の発生時の対応法について方針を定めており、治療の副作用に対する診療科横断的な支持療法体制を確立しています。

希少がんや原発不明がん患者さんに対する治療支援

全てがんのうち、10～15%を占める肉腫や神経内分泌がん、原発不明がんなど、いわゆる希少がんと呼ばれるがんに罹患された患者さんが「がん難民」とならないように、臨床腫瘍部を中心に病理診断やがんゲノム診断を含めてキャンサーボードを開催し、患者さん個々に最適な治療を提案させていただきます。AYA世代の患者さんには、就学・就業に関する支援や生殖機能の維持、晩期合併症への対応などの支援を行います。

がんゲノム医療の充実

標準治療の効果が得られない患者さんや標準治療がない希少がんの患者さんを対象に、がんゲノム外来を窓口にしてがんの原因となっている遺伝子の異常を調べる遺伝子パネル検査についてのご相談を承っております。

遺伝子パネル検査を実施した結果、新たな治療法が見つかる可能性は決して高くはありませんが、有望な薬剤が見いだされた場合には保険診療での治療や治験施設の紹介、保険診療の適応外であれば患者申出療養制度の活用などの提案をさせていただきます。また、遺伝子パネル検査の結果から、特定のがんに罹りやすい体質があり且つ、子孫に受け継がれる可能性のあることが偶然発見されることがあります。そのような場合には遺伝カウンセリング外来で、専門の遺伝カウンセラーによるカウンセリングを受けていただくことで患者さんやご家族の不安を軽減できるようお手伝いさせていただきます。

高齢者にやさしいがん医療

ご高齢のがん患者さんが増加しており、合併症や身体機能、臓器機能、認知機能、栄養状態などがん以外の面で患者さんごとに大きな差があります。患者さんごとに包括的機能評価を行わせていただき、介護環境や居宅状況も考慮して、患者さんひとりひとりに最適な治療を選択していただけるように提案させていただく体制を充実させます。

がんゲノム医療部

「がん対策基本法」に基づき国で策定された「がん対策推進基本計画」(現在第3期:平成30年3月9日閣議決定)のなかで、「がん医療の充実」のトップに掲げられているがんゲノム医療につきまして、次世代シーケンサー(核酸の配列を、同時並行で高速・大量に読み取る解析装置)を用いたゲノム解析(遺伝子パネル検査)を外部の検査受託企業等へ委託し、その結果を用いて各分野の専門家との協議(エキスパートパネル)を行い、患者さんごとの個別化医療の提案、提供等の充実を目指します。

名古屋市立大学病院は、2018年4月に厚生労働省より「がんゲノム医療連携病院」に指定されています。

[主となる連携先医療機関]

- ・国立がん研究センター

[人材育成を目的とした連携先医療機関]

- ・京都大学医学部附属病院
- ・名古屋大学医学部附属病院
- ・慶應義塾大学病院

部長 遠山竜也(乳腺外科教授) 乳がん治療・乳房再建センター長兼務



名古屋市立大学病院に「がん診療・包括ケアセンター」を開設することになりましたが、その下部組織として「がんゲノム医療部」を新設することになりました。「がんゲノム医療部」の役割は、がん関連遺伝子の異常を1回の検査で調べることのできる「がんゲノムプロファイリング検査(がん遺伝子パネル検査)」を、正確かつ円滑に行うことにより、個々の患者さんに適したより効果的でより副作用のない治療方法を提供することです。手術や生検のサンプルだけでなく、血液を用いたりキッドバイオプシーにも対応できる体制を構築しています。

がんゲノム医療提供までの流れ

ご希望される患者さんがいらっしゃいましたら、がん相談支援センター(当院1階)までお電話でお問い合わせください。

患者さんには、診察等に先だって、がん相談支援センターの相談員もしくは専門相談員が対応させていただきます。

相談を経て、がんゲノム外来等の受診のご案内をさせていただきます。

電話:052-851-5511(代表) 代表より、内線2014へ繋いでいただいでください。

臨床腫瘍部

「がん対策基本法」に基づき国で策定された「がん対策推進基本計画」(現在第3期:平成30年3月9日閣議決定)のなかで、「がん医療の充実」のうち、薬物療法、免疫療法、支持療法について、薬剤の組み合わせや副作用対策など患者さんひとりひとりにあわせた最適な医療の提供を目指します。また、薬剤の治療についての不安や疑問に対するご相談なども承ります。

部長 小松弘和(血液・腫瘍内科教授)



臨床腫瘍部では、科学的に根拠のあるがん薬物療法を安全に、有効にそして効率的に実施することを目指しています。また、医師のみならず、看護師、薬剤師、医療専門者など多職種での症例検討を進め、より高度な治療の提供を目指しています。さらには、希少がんや難治がんの診療、臨床腫瘍外来等、患者さんが「路頭に迷わない」ように全人的ケアをすることを目指しています。

化学療法室

- ・予約制です
待ち時間軽減、専門スタッフが患者さんひとりひとりの現病等を前日に予習します。
- ・抗がん剤の調剤
学会から認定を受けたがん専門薬剤師が調剤を行います。また、抗がん剤自動調製装置と連携して抗がん剤の自動調製も行っています。

薬剤師外来の併設

患者さん及びご家族の方に向けた、がん専門薬剤師による薬剤師外来を設けました。各種抗がん剤等の説明や副作用等に関する相談、抗がん剤等の投与中における日常生活のアドバイス等、患者さんが安心して治療を受けていただける医療の提供を目指しています。

がん医療支援部

「がん対策基本法」に基づき国で策定された「がん対策推進基本計画」(現在第3期:平成30年3月9日閣議決定)のなかで、「がん医療の充実」のうち、小児がん、AYA世代のがん、高齢者のがんに重点を当て、「がんとの共生」にもあるあてられている相談支援をはじめ、就業・就職など社会復帰、妊孕性の確保に関する案内、アピアランスケアの案内など、患者さんひとりひとりの悩みを軽減できるような提案ができることを目指します。

乳がん治療・乳房再建センター

乳がんの手術をされた患者様のアピアランスケアを第一に、乳腺外科と形成外科の医師が一つのチームとして、「乳がん手術+乳房再建術(インプラント(人工乳房)または自家組織)」を実施します。

また、乳がんの再発に対する不安やがんの進行に伴う疼痛など、治療に関連して起こる心身の苦痛に対し、こころの医療センター、緩和ケア部、麻酔科(ペインクリニック)及び化学療法部の医師などが密接に連携することでトータルサポートを提供します。

部長 遠山竜也(乳腺外科教授) がんゲノム医療部長兼務



当センターの最大の特長は、複数の分野の医師や医療技術者が部署の垣根を越えて協力し、一丸となって乳がんの診療にあたることです。

「乳がん手術と乳房再建術」については乳腺外科と形成外科が、乳がんの再発に対する不安やがんの進行に伴う疼痛など、治療に関連して起こる心身の苦痛に対してはこころの医療センター、緩和ケア部及び麻酔科(ペインクリニック)が主に担当します。

当センターの設立によって、これまで以上に連携が強化され、患者さんに提供する医療の質がより一層高まります。



事務局 名古屋市立大学病院 医学・病院管理部医事課
電話:052-851-5511(代表) 内線:7122

コンプライアンス推進室の設置について

1 背景・趣旨

- ・社会経済情勢の急速な変化による様々な環境要因により多くのリスクを抱える中で、法令を遵守しながら、適正に事務事業を執行していくことが求められている。
- ・一方、これまで全学横断的にコンプライアンスを専任で統括する部署が存在せず、監査機能についても企画広報課が兼務するなど、組織体制が脆弱であった。
- ・これらの状況を鑑み、全学横断的な専任組織としてコンプライアンス推進室を新設し、コンプライアンス体制の強化とその継続的な推進を図る。併せて監査室を兼務することで、法人の内務監査機能を担うものとする。

2 主な業務

- ・全学横断的なコンプライアンスの確保に関する企画調整
- ・内部統制の総括
- ・内部通報、ハラスメント相談の窓口
- ・内部監査、監事及び会計監査人との調整など監査の総括

3 組織図（平成 31 年 4 月 1 日現在）



日経 BP「全国大学スマホ・サイト ユーザビリティ調査 2019-2020」

優れた大学サイト構築の指針を提示することを目的に、大学のスマホ・サイトの使いやすさ等を評価する同調査において、本学スマホ・サイトが、**総合評価で全国 1 位と評価**された。なお、前年度の同調査では全国 2 位（国公立大学 1 位）であった。

<結果概要>

- ・ 日経 BP コンサルティングが大学のスマートフォン・サイトを評価するもので、今回で 5 年目の調査。
- ・ 総合ランキングは 1 位が本学、2 位が東京工科大学。
- ・ “ストレスのないサイトかどうか” という視点に立った 8 つの評価指標に沿って大学スマホ・サイトがスコア化、ランク付けされる。
- ・ 調査対象は、スマホ・サイトを提供している国立大学、公立大学、私立大学のうち、学部学生数の上位大学（多い大学）260 サイトとした（30 年度 258 サイト）。内訳は国立大学 62 校、公立大学 22 校、私立大学 176 校。（調査実施期間：2019 年 6 月上旬～9 月上旬）

<総合ランキング>

順位	大学名	総合スコア	前回
1	名古屋市立大学	96.25	2 位
2	東京工科大学	94.48	1 位
3	北海学園大学	88.11	3 位
4	明治学院大学	82.06	4 位
5	崇城大学	78.25	5 位
6	東京工芸大学	76.67	15 位
7	神戸市外国語大学	76.56	13 位
8	静岡県立大学	75.37	12 位
9	長崎県立大学	74.92	10 位
10	国際基督教大学	74.73	7 位

<今年度調査における本学順位向上のポイント>（日経 BP サイトから転載）

- ・ 2 位の東京工科大学とほぼ同評価だったが、画像を含めページ容量を抑えたことで表示の速さで上回った。

参考 URL <https://consult.nikkeibp.co.jp/info/news/2019/1025sus/>